

産地パワーアップ事業の取組事例

(北海道)

取組の概要

取組の概要 : 高収益作物への作付転換による産地化
計画作成主体 : 京極町地域農業再生協議会
対象品目 : にんじん (産地面積: 160.3ha)
主な取組主体 : 三区・中野機械利用組合
成果目標 : 販売額の10%以上の増加
(10a当たり)
助成金の活用 : 生産支援事業 (収穫機)
状況

ポイント

広域JAが人参集出荷選別施設を27年に整備
収穫機のリース導入により、収穫作業の省力化・効率化と適期収穫による品質の安定化を図ることが可能となり、現状の小麦等から高収益作物の「にんじん」に作付転換し、作付面積を拡大することにより、販売額の12.2%以上の増加を実現

地区の概要



産地の現状と目標

現状:H27年度

作付面積: 136.55ha
生産数量: 5,356t
販売額: 206,476円/10a

目標:H30年度

作付面積: 160.3ha
生産数量: 6,205t
販売額: 231,752円/10a



推進体制

農業改良普及センター等からの技術的な指導のほか、地域関係者(京極町、JA ようてい京極支所等)が一体となり、事業を推進。

地域における独自の取組

主な取組

生産者毎の出荷データや生産履歴、土壌分析の数値を解析するとともに、収量及び秀品率の低い生産者の要因を分析し、分析結果及び対応策を生産者にフィードバックすることにより、収量及び秀品率を向上させ、産地の底上げを図る。

事業効果

収穫機のリース導入により、高収益作物「にんじん」への作付転換と作付面積の増加を図る。
これにより、販売額が増加し、生産者の所得向上につながり、にんじんの産地強化を実現。

~ にんじんの販売額 ~

